

觀世流改訂儒本

內三

老松

賴政

并簡

三井寺

天鼓

明治四十三年七月十日印刷
明治四十三年七月十五日發行

訂正者、檢印
十キモ、八偽版也

東京市麴町區中六番町二十九番地

訂正兼
發行者 丸 岡 桂

東京市下谷區二長町壹番地

印刷者 塚原 錦三郎

東京市下谷區二長町壹番地

印刷所 凸版印刷株式會社

東京市麴町區中六番町廿九番地

發行所 觀世流改訂本刊行會

電話番町二五四四番

せとあらたな御霊夢や蒙りての向。
唯今九州は向はる
かゝる沈時の心よかなよ沈時のため
もありや日の本は國豊るある秋津洲
の浪も音あき回の海島懸唐土も残
りあきほ洞の道のままらよ安樂寺よ
も著るなほけり安樂寺よも着るなほけり

真二声

梅の危^{ツク}笠^ス春もきて^ス 鐘^スよて^ス 鳥^スれ

指^スりま^ス 松の^ス 葉^ス 色^ス しも^ス 時^ス め^ス ま^ス いて^ス 十

あ^スり^ス 深^ス 中^ス 緑^ス り^ス ま^ス 風^ス と^ス 家^ス づ^ス て^ス 密^ス ま

向^ス く^ス 斗^ス け^ス 葉^ス 守^ス の^ス 松^ス の^ス 戸^ス よ^ス 春^ス と^ス 心^ス へ

て^ス 忽^ス ち^ス よ^ス 露^ス は^ス 西^ス 方^ス け^ス 草^ス ず^ス ま^ス ま^ス で^ス 伸^ス け

恵^ス ん^ス の^ス 靡^ス く^ス も^ス 春^ス の^ス も^ス 渡^ス り^ス 風^ス り^ス ま^ス う

歩^ス ん^ス の^ス 運^ス ぶ^ス 宮^ス 寺^ス の^ス 光^ス の^ス どの^ス け^ス ま^ス 春^ス の

下考

歩^ス ん^ス の^ス 運^ス ぶ^ス 宮^ス 寺^ス の^ス 光^ス の^ス どの^ス け^ス ま^ス 春^ス の

心の上^ニあ^リて^ハ松^ノ根^ノの^ハ岩^ノ向^ヲ傳^フよ^ク若^シ席^ノ岩^ノ向^ニ
 目^ノよ^ク松^ノ根^ノの^ハ岩^ノ向^ヲ傳^フよ^ク若^シ席^ノ岩^ノ向^ニ
 傳^フよ^ク若^シ席^ノ敷^キ島^ノの^ハ道^ノま^でも^もび^けよ^ま
 あり^も汝^ノの^ハ雪^ノの^ハ古^ノ枝^ノも^も惜^ム
 一^ノも^も花^ノ威^ノも^も折^レも^もさ^らな^らず^も梅^ノの^ハ
 花^ノ枝^ノい^ぎも^もあ^らむ^も梅^ノの^ハ花^ノ枝^ノも^もあ^らむ^も
 ん[。]
 心^ノの^ハ花^ノ枝^ノも^もあ^らむ^も梅^ノの^ハ花^ノ枝^ノも^もあ^らむ^も
 心^ノの^ハ花^ノ枝^ノも^もあ^らむ^も梅^ノの^ハ花^ノ枝^ノも^もあ^らむ^も

よていぞ ^早 間も及びたら ^{トビ} 飛梅とら

何れの本と申のぞ ^{ツレ} あら事も ^{オロカ} 愚や

われら ^早 作。紅梅殿とこそ ^{ヤガ} 忠家の申の

へ ^早 げよく ^ト 紅梅殿とも申まへ ^元 申のぞ

や ^ト たら ^ク げ ^ス あり ^和 も ^ア ぞ ^ガ 係 ^カ 敷 ^ス あり ^ト 今 ^元 神 ^ト

お ^ト あり ^マ ぬ ^テ ぬ ^ハ 忠 ^シ 家の ^テ も ^ハ 松 ^シ 籠 ^テ も ^ハ 長 ^タ け ^ラ

ま ^ト して ^マ ぬ ^ハ 忠 ^シ 家の ^テ も ^ハ 松 ^シ 籠 ^テ も ^ハ 長 ^タ け ^ラ

何事も遠くへとちりちりしてゐるぞ
くま

くまも垣をひらき出たあつた。

真マコトよめタエある狎ハまツクと見えたりカレしうツクまツク

これスニの老松ニのむきニくもニに得ニぬニまニもの

うスる。紅梅ベニ殿ノの雪ユキはニきらニるニきニしもニ若ニ木ス

のカ花ハ字ジもモやヤもモ華ハもモあアらラまマもモもモ換カ

へヘてテまマらラむムらラむムらラむムらラむムのノ景カ

● 獨吟仕舞

古^{フル}び^ニた^ニら^ニま^ニし^ニる^ニ人^ノの^ニ宿^{ヤク}寂^{シク}し^ニま^ニせ^ニよ
も^ニろ^ニと^ニ。老^ニ松^ニと^ニ。度^ニ流^ニ入^ニせ^ニぬ^ニ神^ニ慮^ニも^ニい
わ^ニど^ニ怒^ニろ^ニや^ニ。 半^ハ月^{ツキ}物^ニを^ニ當^ニ狂^ニの^ニい^ニを^ニい^ニ毒

く^ニま^ニ物^ニ傍^ニり^ニい^ニく^ニ。 三^ミチ^チサ^シ先^ニづ^ニつ^ニ狂^ニ壇^ニの^ニ跡^ニを

揮^ニ又^ニを^ニい^ニく^ニ也^ニ。北^ニよ^ニ娥^ニと^ニら^ニ青^ニ山^ニあり。

臆^ニ日^ニ松^ニ閑^ニの^ニけ^ニよ^ニ映^ニ南^ニよ^ニ寂^ニと^ニら^ニす

瓊^ニあり^ニ斜^ニ竹^ニ竿^ニの^ニも^ニろ^ニと^ニ透^ニけ^ニり

下シテ
 たよ火焔の輪塔あり。翠峯紅園の粧
 ひ昔を忘れず。右よ古寺の舊跡あ
 り。晨鐘夕梵の響絶るることあ
 クセト、

げよ心あり。草花ありと申せども。
 中ニテ、
 中ニテ、
 中ニテ、
 清木のけよ松梅の。殊よ天神の。皆自愛
 りて紅梅殿も老松も皆末社と現

徳。漢家より徳を現。唐の帝の時。我朝よりも

文。漢家より徳を現。唐の帝の時。我朝よりも

文。漢家より徳を現。唐の帝の時。我朝よりも

文。漢家より徳を現。唐の帝の時。我朝よりも

文。漢家より徳を現。唐の帝の時。我朝よりも

文。漢家より徳を現。唐の帝の時。我朝よりも

文。漢家より徳を現。唐の帝の時。我朝よりも

子多の養の作皇は狩の時天子は
 又おの皇の大雨頻は降りりるが帝雨を
 凌ぐんとふ松の陰は寄りり流し松根
 又木末のあり枝を垂れ葉をさぐ木の
 向さぬおの寒ぎて其雨を偏かざりし
 うち帝木末とら子爵を贈り流し
 松を木末とやまありあかり

名高き松梅の花も千世まで行

く末之は所垣守守るべし守るべし

神はとも同く名の花満つ空もくみ家

をけ。花も松ももろもろは萬代の春

ころも千世萬代の春のや。婿早上方ニ

まらやいざらも婿もつやいざら

らも。汝松蔭は旅居て。風も清く寅

中入待詠

の晴^中神の告^{ツク}をも待ちて見^ミん神の告^{ツク}を

もま^マちてみ^ミん

出端^{出端}

梅^{ウメ}の客^客人^人を^を行^行る^る慰^慰め^めぬ^ぬよ^よま^ま

梅^{ウメ}も^も色^色添^添

げ^地は^地珍^珍ら^らる^る春^春も^もな^なち^ち 梅^{ウメ}も^も色^色添^添

松^{マツ}も^も色^色添^添 名^ナを^を老^老木^木の^の若^若

空^{ソラ}沈^沈み^み神^{カミ}の^の告^{ツク}を^を 教^{ツク}を^を

舞^{マヒ}楽^{ガク}を^を供^{ツク}ふ

いんぎの寺の考も満ちたるありげなや

真之序舞
シテ上

さま枝のさま枝の梢は君すれ花

の袖とれい老木の神松の

れい老木の神松の千代はるを代よ

ざれ石の崖ありて苔のみま

で 苔のみままで松竹鶴亀の

上地
重
齡を授くるこの君の行く末は後れと

●小舞仕舞

老松

我ナニグナニ神ナニ詭ナニのナニつナニげナニをナニ志ナニらナニまナニるナニ。松ナニ凡ナニも
 梅ナニもナニ。之ナニ一ナニもナニ。春ナニこナニをナニ。めナニでナニ。たナニけナニれナニ。

朝長、實盛ト
合ヒテ三修羅
トイフ

頼政

五月 廿日 頼政前老人

平河
これの諸國一夏ツカの僧より。ちれは

頼の都よりして。洛陽の寺社残りお

くオガ推メグ又シより南都よ

来らばやと思ひヨウク天雲トクのウヤ縮ナ

の社サ仗オガ推メグ縮ナ行ナの社サ又シ推メグ又シ

行く末シの深コ草クサやま情コトの閑ヒトを今イマ越ナ